

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 107 ~ 108 円台でもみ合いか

[11月4日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月28日 ~ 11月1日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.67	109.29(30)	107.89(1)	107.97	-0.70
ユーロ・ドル	1.1082	1.1176(31)	1.1074(29)	1.1162	+0.0082
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	22,850.77	+50.96	日本10年債利回り	-0.177	-0.041
ダウ平均株価	27,046.23	+88.17	米10年債利回り	1.691	-0.103
=====					

< 来週の主要経済統計等 >

- 4日 豪9月小売売上高
米9月製造業受注
- 5日 豪中銀 (RBA) 政策金利
ユーロ圏9月生産者物価指数
カナダ9月貿易収支
米9月貿易収支
米10月ISM非製造業景況指数
- 6日 NZ第3四半期雇用統計
独9月製造業受注指数
ユーロ圏9月小売売上高指数
米MBA住宅ローン申請件数
米第3四半期非農業部門労働生産性指数
カナダ10月Ivey購買部協会指数
- 7日 豪9月貿易収支
独9月鉱工業生産指数
英中銀 (BOE) 政策金利
米新規失業保険申請件数
- 8日 日本9月勤労者世帯家計調査
中国10月貿易収支
日本9月景気動向指数速報値
スイス10月雇用統計
独9月貿易収支、独9月経常収支
カナダ10月雇用統計
米11月シガン大学消費者信頼感指数速報値
- 9日 中国10月消費者物価指数、中国10月生産者物価指数

【前回のレビュー】米国の経済指標は伸びの鈍化や下振れが警戒されるものの、株価は堅調に推移している。ドル円は極端な円高には振れにくいとみられ、大きく上昇する強さには欠けるものの、堅調な株価も下支え要因となり、ドル円は107 ~ 108円台での一進一退の動きとなりそうとした。

【米中懸念再燃がドル円の圧迫要因に】

10月29 ~ 30日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) では、大方の市場予想の通り0.25%の利下げを決め、フェデラルファンド (FF) レートの誘導目標を1.75 ~ 2.00%から1.50 ~ 1.75%に引き下げた。

声明では前回までの「適切に行動」の文言が外れたことで今後の利下げ一服感も出ている。なお、パウエル議長の会見では経済状況の悪化などでは利下げの可能性もあることも示唆されている。足元でのCMEフェドウォッチでは次回12月会合では8割が据え置き、2割が0.25%利下げを見込んでいる。FOMC後にドル円は109円台前半まで上昇したものの、すぐに下げに転じて108円台半ばまで下落した。

なお、30日に発表された米第3四半期国内総生産（GDP）速報値は前期比年率+1.9%となり、事前予想の+1.6%を上回ったものの、FOMC前ということもあり、影響は限定的となった。

10月30～31日の日銀金融政策決定会合では金融政策に変更はなかった。フォワードガイダンス（将来の金融政策指針）が変更され、前回までの「少なくとも2020年春ごろまで」としていた現在の金利政策を「物価安定の目標に向けたモメンタム（勢い）が損なわれるおそれに注意が必要な間」は続ける姿勢を示した。黒田日銀総裁の記者会見も新鮮味に乏しく、市場への影響は限定的となった。

ドル円はFOMC後に109円台前半まで上昇した後、108円台半ばまで下落した。その後の日銀金融政策決定会合や黒田日銀総裁の記者会見、北朝鮮の飛翔体発射の報道には反応薄となった。その後、10月31日の夕方に「米国との包括的かつ長期的な貿易合意に達することが可能かどうか、中国の当局者らは疑念を抱いている」と報じられた。この報道をきっかけに米中貿易協議を巡る不透明感が再燃して、リスク回避の動きとなり、ドル円は108円台半ばから108円割れまで下落した。

米中貿易協議の不透明感が各国の株価やドル円の上値を抑える展開となりそうだ。米中両国は第1段階の貿易協定調印に近づいているとみられるが、中国は構造問題など最重要課題で譲歩する意向はないと報じられている。このため、米中協議への不透明感が根強く残ることとなった。こうした状況を背景にドル円はやや上値の重い展開が見込まれる。ただ、ドル円は堅調な日米の株価などが支えとなって、大きく崩れにくい地合いとなっており、ドル円は107～108円台でもみ合いが見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、106.75～109.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、4日に米9月製造業受注、5日に米9月貿易収支、米10月ISM非製造業景況指数、6日に米MBA住宅ローン申請件数、米第3四半期非農業部門労働生産性指数、7日に米新規失業保険申請件数、8日に日本9月勤労者世帯家計調査、日本9月景気動向指数速報値、米11月シガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは緩やかに上昇か】

英国では12月12日に総選挙の実施が確実となり、英国の欧州連合（EU）離脱に関する不透明感がやや後退したことからポンドドルが堅調に推移している。この動きに追随してユーロドルも上昇基調で推移している。ユーロドルはドルの弱さもあり、1.1100ドル割れの水準から1.11台後半まで上昇するなど堅調な流れを見せている。

ユーロ圏の経済指標はまちまちの動きとなっており、それほど強さはない。ただ、ポンドドルが堅調な動きを見せるとユーロドルは追随しやすい上、ドルの弱さもあって、ユーロドルは緩やかに上昇を続けるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1100～1.1250ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、4日に豪9月小売売上高、5日に豪中銀（RBA）政策金利、ユーロ圏9月生産者物価指数、カナダ9月貿易収支、6日にNZ第3四半期雇用統計、独9月製造業受注指数、ユーロ圏9月小売売上高指数、カナダ10月IVEY購買部協会指数、7日に豪9月貿易収支、独9月鉱工業生産指数、英中銀（BOE）政策金利、8日に中国10月貿易収支、スイス10月雇用統計、独9月貿易収支、独9月経常収支、カナダ10月雇用統計、9日に中国10月消費者物価指数、中国10月生産者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。